

音楽Ⅱ・音楽Ⅲ・総合芸術選択生へ⑦

音楽科 古川

調③

7回目は、調の相互関係についてです。それぞれの調には、互いに密接な関係をもつ調がいくつかあります。これらを説明していきますが、まとめて近親調といいます。音楽の進行において大抵は近親調に進行しながら曲は進みます。楽譜をみてリズムや音程、運指を考えるのは当たり前ですが、この理論を考えて皆さんは演奏できなければなりません。考えられた演奏は1フレーズ聞けば分かります。基礎無しに表現はできませんので机上の空論にならないよう、インプット、アウトプットを自分の専攻で練習して下さい。

1. 同主調

同じ音を主音とする長調と短調を、互いに同主調であるといいます。

例) C dur と c moll、A dur と a moll はそれぞれ同主調という。また、その長・短両調はたがいに同主調であるともいう。同主調の調号は互いに異なるが、第Ⅲ音と第Ⅵ音を除く全ての音が共通になります。

2. 平行調

共通の音階固有音を持つ長調と短調、つまり調号が同じ長調と短調を平行調といいます。例えば C dur と a moll、h moll と D dur は平行調です。

この平行調はよく使用されます。長調と短調のペアのことでもあります。

3. 属調

ある調の(主調)の属音(第V音)を主音とする同種の調を、ある調の**属調**であるといえます。

例えば、C dur の属調は G dur、g moll の属調は d moll、Es dur の属調は B dur です。

4. 下屬調

ある調の(主調)の下屬音(第IV音)を主音とする同種の調を、ある調の下屬音であるといえます。

例えば、C dur の下屬調は F dur、d mollの下屬音は g moll、a moll の下屬音は d moll です。

5. 近親調と遠隔調

1から4の同主調、平行調、属調、下屬調をそれぞれ主調と比較してみます。

同主調は、主音、下屬音、属音、導音が同一の音です。

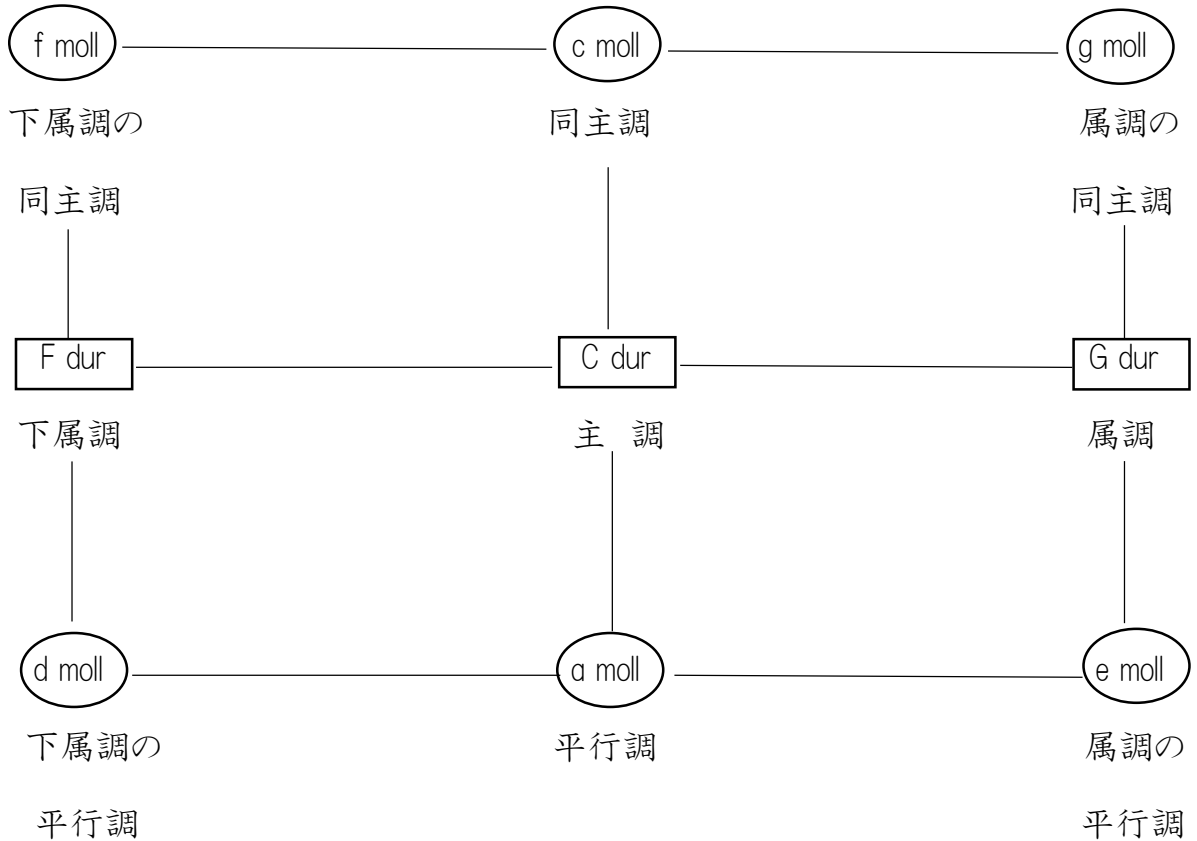
平行調は、音階に含まれる音が共通です。

属調と下屬調は、それぞれ音階に含まれる音が1個だけ異なります。

このように4個の調は主調と相互に、音階に含まれる共通音が多く、密接な関係にあります。この4個の調を主調に関する**近親調**と呼んでいます。

例えばコンコーネ6番は a moll が主調です。3段目の4小節目で F dur になっています。これは平行調の(C dur)の下屬調に行ったと言えます。そして5段目の最後の小節で a moll に戻り、右ページで調号が付き、A dur になりました。これは同主調になったと言えます。

近親調



上記以外を遠隔調と呼びます。遠隔調は近親調の限定の仕方によってその範囲が異なり、遠隔調の中に一括されていても、近親調に準ずる調もあれば、非常にへだたった関係の調もありますが、一般的に主調から上記の近親調の中で作られている曲がほとんどですので、考え方はやはり、I、IV、Vだと思います。ハノンでいうところのカデンツの考え方です。みなさんは和声を学ぶと思いますがそれらはこの基礎的な上に成り立っていますので基礎理論はしっかり問題等で演習して下さい。

新しい課題を郵送しますので各自で挑戦してみてください。コンコーネは進んでいますか？指定されているテンポで止まることなく弾き歌いして下さい。その際、楽譜に鉛筆で書き込んでかまいませんので近親調を考えてみてください。